

1. 「講義理解力試験」で測る力について

「講義を理解する力」「論点を把握する力」「左記2点を表現する力」

※「講義理解力試験」では、講義を聴いて、講義の内容を理解する能力を測ることを目的とする。事前に、講義に関する内容を知っている必要はない（知識を問うものではない）。本試験は、その場で講義を聴いて、講義の内容をどれくらい理解できるか、自分の中で咀嚼して説明できるか、といったことを知るための試験である。このような能力は、大学の講義を受ける際に求められる基礎的な能力でもある。

2. 「講義理解力試験」のおもな特徴

- (1) 試験は記述（論述）式で行う。
- (2) 講義のテーマは、毎年変わるが、「社会福祉」に関連する内容となる。
- (3) 特定の科目にはとらわれず、いろいろな教科・科目についての基礎的な知識・能力を求める。
- (4) 試験は、講義（50分）を受講してもらい、休憩（10分）をはさみ、講義内容に関する記述試験（60分）を行う。
- (5) 講義は大学で行う授業とほぼ同じ形式で行う。第1次選考合格者に、講義のテーマやキーワードを伝える。
- (6) 講義の際、受験生は各自必要に応じて配布した資料にメモをとることができる。
- (7) 講義中にとったメモは、配布資料とともに試験時間中に参照しても構わない。ただし、辞書や参考資料などの持ち込みはできない。

3. 出題方式について

詳細については検討中。2に基づき「要約」と「論点」を説明する記述を求める予定。全部の文字数は合わせて600-1000字位を想定。